

令和 2 年 6 月 5 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K12028

研究課題名(和文)患者教育における看護師のピリーフ尺度の開発

研究課題名(英文)Development of a nurse's belief scale for patient education

研究代表者

道面 千恵子(Domen, Chieko)

九州大学・医学研究院・助教

研究者番号：80363357

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、患者教育に対する看護師に求められるピリーフの構成概念を整理し、ピリーフ尺度を開発することである。患者教育を実践する専門的資格を持つ看護師のインタビューを元にピリーフ尺度原案を作成し、看護師763名を対象に質問紙調査を行った。患者教育ピリーフ尺度は、26項目5因子構造が得られた。Cronbach's 係数の算出、因子分析の結果、信頼性・妥当性が確保された。また保健師へ調査した結果、看護師と異なることから、より看護師に有用なピリーフ尺度であると考えられた。本尺度は、看護師のリフレクションの指標や看護師の現任教育や自己認知により患者教育へ貢献できるものと考えられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、看護師に求められる患者教育の質向上を目指すために、看護師のピリーフを明らかにした研究である。患者教育に関して、これまでは看護師の側に着目した研究は少なく、看護師の実践された中での経験知も多いことから、看護師のピリーフ、つまり看護師のものの見方価値観について探求したものである。患者教育に対する看護師のピリーフ尺度は、看護師のリフレクションの指標として活用され、看護師の現任教育や自己認知により、より質の高い患者教育へ貢献できるものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to organize the concept of nurse beliefs for patient education and to develop a belief scale. A questionnaire survey was conducted on 763 nurses based on the draft belief scale drafted in the previous study. The Patient Education Belief Scale has a 26-item 5-factor structure. Reliability and validity were ensured by calculation of Cronbach's coefficient, factor analysis, confirmatory factor analysis, and known group method. As a result of surveys with public health nurses, the internal consistency of the scale is different. Because the belief factor of public health nurses is different from that of nurses, it is a patient education belief scale that is more useful to nurses.

The nurse's belief scale for patient education can be used as a process of nurse reflection, and it was considered to contribute to higher-quality patient education by being used for nurse training and new nurse education.

研究分野：基礎看護

キーワード：患者教育 ピリーフ 看護師

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

糖尿病患者数は依然として増加し、透析や神経障害などの合併症は、患者の QOL を大きく阻害するものである。糖尿病患者の生活に関わる療養指導は、重要であり、平成 20 年には糖尿病合併症管理料、平成 24 年には糖尿病患者透析予防指導管理料と診療報酬が加算された。このことから、糖尿病の重症化予防としての看護師の行う患者教育は大変重要視されている。

看護師らは、患者教育を行っている中で、患者の行動変容に困難感を示すことがある。看護師の一方的な伝達だけでは、患者の行動変容は起こらないこと、つまり知識の提供は必ずしも行動変容に結びつくとはかぎらないことは指摘されていた。

これまでの研究には、認知行動やコーチングスキルを用いた健康教育についての研究が行われている。効果的な患者教育として、申請者も属する河口ら¹⁾の研究グループにより看護師の教育的な関わりモデルが開発され、教育的雰囲気や教育技法などが明らかとなっている。また申請者自身の先行研究²⁾として、看護師の糖尿病患者教育の認識について研究を行った。過去の文献などから自作の質問紙調査用紙を作成し、調査した結果、看護師の『自己評価的態度』、『学習の促進者』、『情報提供者』、『患者の体験の承認者』、『受容的態度』の 5 つの要素が抽出された。これらの要素は、糖尿病患者に関わる看護師としての役割や態度であった。看護師の認識の基盤には、その人の持つ価値観や信念が基になり、認識は行動に影響すると考える。患者教育における看護師の実践の行動には、価値観が基になっていると考え、価値観や信念をピリーフと捉えた。ピリーフ研究の理論的基盤を概観する。論理療法の ABC 法からなるピリーフ⁴⁾は、ピリーフを変化させれば、結果としての行動様式も大きく変化するというものである。この中には、～ねばならないという絶対的で狭義的なイラショナルピリーフが存在する。一方で論理的な思考としてラショナルピリーフが存在する。この理論を用いた教師のピリーフ研究において、ピリーフを「人が感情を持ったり行動を起こすときに持つ思考であって、信念・価値観から構成された文章記述で示される。」³⁾と定義し、ねばならない型の思考をもつことで強迫的な雰囲気をだすと言われる。看護師の実践する患者教育は、情報伝達の形で、看護師の伝えたい内容ばかりに目がむくようになると、“こうしなければ、こうになってしまう”という思いが先に立ち、“～ねばならない”と強い思いになる。強い思いからくる行動は、やはり患者には強迫的であり、患者にとってプラスに結びつくものにはならない。このように、看護師の信念が基になり、患者教育に反映していると考え。

患者の行動の変容に着目する研究は多くみられるが、患者へ影響を与えるとする看護師に視点をおく研究は少ない。ピリーフ研究では、看護師に関する不合理なピリーフの調査はされているが、看護師の患者教育のピリーフは明らかとはなっていない。今回糖尿病患者教育における看護師のピリーフの特徴を明らかにすることを目的とする。本研究のピリーフは、ものの見方、とらえ方とし、価値観・信念と定義する。

2. 研究の目的

慢性病、特に糖尿病などの予防には看護師の教育指導的役割は大きい。看護師の実施する患者教育は、患者に対してこうでなければならないという絶対的なものの見方により、患者はストレスや拒絶、不快感を示してきた。看護師の教育的な関わり方や、効果的な介入については研究がされてきているが、行動の基盤となるものの見方や考え方は研究されていない。そこで看護師の持つものの見方や考え方をピリーフと捉え、糖尿病患者に対する教育活動を実践している看護師自身のピリーフの特徴を明らかにすることを目的とする。さらに看護師の患者教育ピリーフ尺度を開発することにより、患者教育の実践能力の育成、また看護師の教育に役立つものと考えらる。

3. 研究の方法

1) 研究 1

糖尿病患者教育を専門的に実践する看護師たちのインタビューし、糖尿病患者教育の看護師のピリーフの特徴を明らかにする。先行研究と教師のピリーフ³⁾をもとにピリーフの調査項目を開発する。

2) 研究 2

ピリーフの質問紙調査により、患者教育における看護師のピリーフについて看護師へ質問紙調査を実施する。看護師に対し、コントロール群として保健師へも調査する。さらに、質問紙の信頼性や妥当性を検討し、看護師ピリーフ尺度を開発する。

4. 研究成果

1) 研究 1

糖尿病患者への教育や指導を専門とする看護師 13 名のインタビューを行った。インタビュー内容は対象者の同意を得て、IC レコーダーに録音し、逐語録としてデータ化した。データ化したものは、SPSS Text Analysis For Survey 4.0 を使い、テキストマイニングの手法で分析を行った。その結果、患者教育のピリーフとして、19 コのカテゴリが抽出された。患者教育に対する看護師のピリーフとして、19 のカテゴリが抽出された。カテゴリは、【話を聴く】【信頼関係】【指導方法】【目標を尋ねる】【時間と場所】【声をかける】【折り合い】【患者が主体】【情報提供】【自分の役割を伝える】【生活者】【経過を振り返る】【人として

みる】【先入観をもたない】【患者の力】【病気と向き合う】【自覚症状がない】【教わる姿勢】
【自己評価】であった。さらにこれらは、1) 教育的な関わりのピリーフ、2) 病気をもつ患者に対するピリーフ、3) 看護師自身の態度のピリーフに分類された。患者教育に関わる看護師のピリーフの特徴は患者の見方であり、患者の見方は、固定観念を取り除ける柔軟な論理的な思考であることが示唆された。【話を聴く】ということは、特に【時間と場所】を考慮し、患者を【生活者】としてみることに関連があった。

患者教育ピリーフの尺度原案は、19 カテゴリから、それぞれのデータを解釈し、看護師が語る内容から項目を作成した。67 項目となった。

2) 研究 2

患者教育ピリーフ尺度原案により、看護師 605 名を対象に質問紙調査を実施した。ピリーフ尺度原案に対する質問紙の回答有効回答数は、552 名であった。ピリーフの尺度の項目に欠損のある回答は除外した。看護師の属性に関して、年代、性別、最終学歴、職位を示す(表 1)。年代では 20 歳代が最も多く 267 名(48.4%)、次いで 30 歳代 162 名(29.3%)であった。性別では、女性 520 名(94.2%)、男性 27 名(4.9%)であった。最終学歴については、大学卒が 312 名(56.5%)、次いで 3 年課程卒が 188 名(34.1%)であった。職位については、スタッフナースが 476 名(86.2%)であった。看護師経験年数を 4 群に分けた人数を示す。看護師経験年数 5 年以下が 225 名(40.8%)と最も多く、次いで 11 年から 20 年以下の 122 名(22.1%)であった。看護師経験年数平均は、10.5 年 中央値 7.0 年 最大値 39.0 年 最小値 0 年であった。

患者教育における看護師のピリーフ尺度 67 項目の項目分析として、天井効果、フロア効果を確認した。また、I-T 相関を算出し、0.3 以下の項目は他の項目との関連性が低いとみなし、26 項目は、削除した。41 項目を探索的因子分析を行った。重みなし最小二乗法、プロマックス回転を用いた。因子数の決定には、スクリープロットの落差から、5 因子とした。因子分析を繰り返し行い、因子負荷量が 0.4 以下の項目、2 つの因子に高い負荷量を示す項目は除外した。その結果、患者教育における看護師の

表 1

属性質問	回答	数(人)	割合(%)
年齢	20代	267	48.4
	30代	162	29.3
	40代	83	15.1
	50代以上	39	7.1
	無回答	1	0.2
性別	女	520	94.2
	男	27	4.9
	無回答	5	0.9
最終学歴	3年課程卒業	188	34.1
	大学卒業	312	56.5
	大学院(修士課程)	10	1.8
	その他	36	6.5
	無回答	6	1.1
職位	スタッフナース	476	86.2
	主任・副看護師長相当	47	8.5
	看護師長相当	22	4.0
	副看護師長	3	0.5
	看護師長	1	0.2
	無回答	3	0.5
看護師経験年数2	0-5年	225	40.8
	6-10年	112	20.3
	11-20年	122	22.1
	21年以上	84	15.2
	無回答	9	1.6

表 2

	因子1	因子2	因子3	因子4	因子5
生活者としての患者					
14. 看護師は、患者の目標を一緒に考える	0.865	-0.046	-0.074	-0.059	-0.022
15. 看護師は、患者の生きがいや大事にしていることを知る	0.833	-0.078	-0.089	-0.013	-0.017
13. 看護師は、患者と話をする時間をつくるものである	0.638	-0.015	-0.057	0.000	0.118
19. 看護師は、患者に意識的に声をかける	0.583	-0.007	0.193	-0.018	-0.011
20. 看護師は、自ら患者に声をかける	0.510	-0.065	0.311	0.029	-0.037
28. 看護師は、患者の生活を知らなくてはならない	0.509	-0.115	0.057	0.015	-0.004
12. 看護師は、話の場所(空間)に気をつかうものである	0.497	-0.013	0.008	0.075	-0.013
25. 看護師は、患者自身が考えて行動できるような関わりを持つ	0.497	0.257	-0.048	0.059	0.007
27. 看護師は、専門的な知識を持ち患者に情報提供する	0.472	0.218	-0.008	0.022	-0.049
患者のもつ効力					
39. 看護師は、患者の力を信じるものである	-0.036	0.833	0.013	-0.097	0.057
38. 看護師は、患者の力を引き出すように取り組む	0.174	0.752	-0.045	-0.015	-0.021
37. 看護師と患者は、人と人の関係でいることで話やすくなる	-0.110	0.626	0.105	0.099	-0.006
40. 看護師は、患者の頑張っていることを褒める	0.277	0.546	-0.156	0.060	-0.001
36. 看護師は、自身を評価的に指摘してもらうことで成長する。	-0.188	0.524	0.134	0.146	-0.016
41. 看護師は、患者に教えられることは多い	0.106	0.459	-0.013	0.042	0.051
45. 看護師は、患者から教えられる、発見する視点が必要である	0.059	0.400	0.377	-0.064	-0.021
症状に沿った関わり					
43. 看護師は、患者の病気の見通しについての話をする	-0.154	0.034	0.698	-0.029	0.022
44. 看護師は、患者がなぜ現在の症状に至っているかを考える時間を設ける	-0.035	0.141	0.675	-0.027	-0.033
22. 看護師は、自身の役割を患者に伝える	0.223	-0.108	0.527	0.048	0.056
21. 看護師は、医療者・患者間で納得のいく折り合いをつける	0.281	-0.021	0.435	0.002	0.004
患者との土台づくり					
2. 看護師は、特に信頼関係が重要である	-0.021	0.049	-0.036	0.736	-0.086
4. 看護師は、笑顔であいさつをするものである	0.043	-0.005	-0.026	0.602	0.052
1. 看護師は、まずは患者の話を聞く	-0.050	0.090	-0.036	0.602	-0.005
3. 看護師は、自らが名乗ってから話し始める	0.098	-0.097	0.067	0.545	0.080
柔軟な患者の見方					
31. 看護師は、患者が気難しいと表面的に見ない	-0.044	-0.019	0.049	0.041	0.814
32. 看護師は、できない患者と一概にみないものである。	0.059	0.090	-0.028	-0.041	0.665

因子抽出法: 重みなし最小二乗法

ピリーフ尺度 26 項目 5 因子で明瞭な解を得た(表 2)。患者教育における看護師のピリーフに関して、第 1 因子は 9 項目であり、看護師は患者の生活や大事にしていることや生きがいなどを知り、共に目標を考えていくこと、また患者を理解しようと意識的に話をしていくことという項目が含まれていたため【生活者としての患者】と命名した。第 2 因子は 7 項目であり、看護師は患者の持っている力を信じ、引き出すように取り組むことや、患者との関係は対等であり、患者から教えられることを感じているという項目がふくまれていたため、【患者のもつ効力】と命名した。第 3 因子は 4 項目であり、看護師は患者の病気の見通

しを話したり、症状について考える時間を設けること、医療者と患者の間で折り合いをつけていくことなど、このような看護師としてできる役割を伝えることが含まれていたため、【症状に沿った関わり】と命名した。第4因子は4項目であり、看護師は信頼関係をもつための挨拶や名乗ること、話を聴くことが、患者との初めての出会いの場面での関わりにつながる項目が含まれていたことから、【患者との土台づくり】と命名した。第5因子は2項目であり、患者の見方は、一概にできないと決めつけないことや、気難しいと表面的にみないことが含まれていたため、【柔軟な患者の見方】と命名した。

信頼性の検討は、クロンバック係数を用い、ピリーフ尺度全体の26項目では0.92であった。下位因子0.72~0.87であった。採択した因子構造を仮説モデルとし、データが合致するかを検討するため、共分散構造分析による確認的因子分析を行なった。看護師のピリーフ尺度因子構造と保健師の回答との比較について、尺度全体26項目では有意差があり保健師の得点が高かった。下位因子の比較では、第2因子「患者の持つ効力」、第3因子「症状に沿った関わり」、第5因子「柔軟な患者の見方」について有意差があり、保健師の得点は高かった。

3) 考察

患者教育における看護師のピリーフ質問項目の信頼性について、クロンバック係数は全体で0.92、各因子とも0.7以上であり、内部一貫性は確保されたと考えられた。構成概念妥当性は、探索的因子分析の結果の仮説モデルの確認的因子分析を実施し、5因子の下位尺度が抽出され、モデルの適合度は一定程度確認できた。患者教育に対する看護師のピリーフ尺度は、看護師のリフレクションの指標として活用され、看護師の現任教育や自己認知、または新人看護師教育や看護基礎教育などに活用できるものと考えられた

引用文献

- 1) 河口てる子：看護の教育的機能向上のための「看護実践モデル」の検証および患者教育の体系化、平成13年度から平成16年度科学研究費補助金（基盤研究B1）研究成果報告書、2005
- 2) 山本（道面）千恵子、柴田興彦、江崎フサ子：糖尿病患者の学習支援に関する看護師の認識とその影響要因の検討、九州大学医学部保健学科紀要3、2003
- 3) A.Ellis 著、澤田慶輔・橋口英俊 訳：人間性主義心理療法、1984
河村茂雄：教師特有のピリーフが児童に与える影響、風馬書房、2000

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 道面千恵子	4. 巻 23巻
2. 論文標題 糖尿病患者への患者教育に対する看護師のピリーフ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本糖尿病教育・看護学会誌	6. 最初と最後の頁 25-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 道面千恵子, 長弘千恵, 大池 美也子, 原田博子, 仲野宏子, 原田広枝	4. 巻 21 (2)
2. 論文標題 専門的資格を有する看護師の糖尿病患者教育に対するピリーフの特徴,	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 国際医療福祉大学学会誌	6. 最初と最後の頁 103-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Chieko Domen , Nobuko Hashiguchi , Miyako Oike
2. 発表標題 Nurses' Beliefs in Patient Education ~Comparison with Public Health Nurses' Belief~
3. 学会等名 The 8th Hong Kong International Nursing Forum cum 2018 International Council on Women's Health Issues Congress (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 道面千恵子
2. 発表標題 糖尿病患者への患者教育に対する看護師のピリーフ
3. 学会等名 第22回日本糖尿病教育・看護学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chieko Domen , Miyako Oike
2. 発表標題 Factors influencing nurses' belief in patient education
3. 学会等名 The 5th International Nursing Research Conference (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Chieko Domen, Chie Nagahiro, Miyako Oike
2. 発表標題 Nurses' awareness regarding patient education for diabetics in Japan
3. 学会等名 The 3rd Korea-Japan joint conference on community health nursing (国際学会)
4. 発表年 2016年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担 者	大池 美也子 (Oike Miyako) (80284579)	国際医療福祉大学・福岡看護学部・教授 (32206)	